

## 哺乳類



### ドブネズミ

- 生物分類：ネズミ目ネズミ科クマネズミ属
- 由来：不明
- 重要種等の指定状況：－
- 撮影場所：大塚
- 撮影日：2022年3月5日

水辺や湿った土地に棲息し、泳いで移動することもあります。日没・日中の頃や、曇天、雨天などの薄暗い時に活動しているのを見かけることがあります。

## 鳥類



### ヨシガモ

- 生物分類：カモ目カモ科マガモ属
- 由来：在来種
- 重要種等の指定状況：EN\*1
- 撮影場所：神田川（関口）
- 撮影日：2022年2月20日

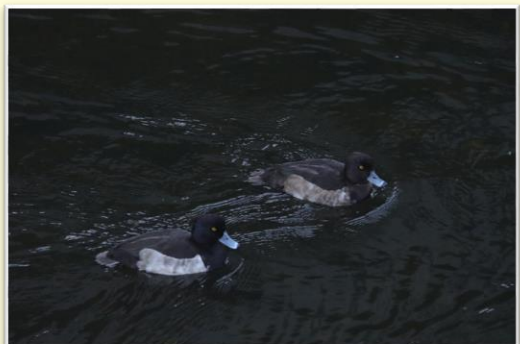
区内に冬に飛来するカモ類の一種で、神田川や比較的大きな池で見られます。主に植物の種子や水草などを食べます。写真の個体はオスで、ナポレオンの帽子を被ったように見えるのが特徴です。



### ヒドリガモ

- 生物分類：カモ目カモ科マガモ属
- 由来：在来種
- 重要種等の指定状況：－
- 撮影場所：肥後細川庭園
- 撮影日：2022年2月20日

区内に冬に飛来するカモ類の一種で、神田川や比較的大きな池で見られます。主に植物の種子や水草、水生動物などを食べます。写真の個体はオスで、頭部が緋色に見えるため緋鳥鴨といわれます。



### キンクロハジロ

- 生物分類：カモ目カモ科スズガモ属
- 由来：在来種
- 重要種等の指定状況：－
- 撮影場所：神田川（関口）
- 撮影日：2021年12月25日

区内に冬に飛来するカモ類の一種で、神田川や比較的大きな池で見られます。水中に潜って、エビ・カニ類や貝類、昆虫類、水草などを食べます。金色の目、全体的に黒色で羽が白いことが名前の由来です。羽の白色がはっきり見える左側の個体がオスで、黒ずんで見える右側の個体がメスです。



### ゴイサギ（幼鳥）

- 生物分類：ペリカン目サギ科ゴイサギ属
- 由来：在来種
- 重要種等の指定状況：VU\*1
- 撮影者：Sillago
- 撮影場所：小石川植物園
- 撮影日：2020年11月5日

水辺に生息し、魚類や両生類、エビカニ類などを食べます。区内ではほぼ一年中見られます。夜行性ですが日中でも見られます。



### オオバン

- 生物分類：ツル目クイナ科オオバン属
- 由来：在来種
- 重要種等の指定状況：CR\*1
- 撮影場所：神田川（関口）
- 撮影日：2021年12月25日

区内に冬に飛来する冬鳥で、ハツと見ではカモに似ていますが、カモとは全く異なるクイナの仲間です。神田川や比較的大きな池で見られます。主に植物の種子や水草などを食べます。

# 鳥類



## セイタカシギ

- 生物分類：チドリ目セイタカシギ科セイタカシギ属
- 由来：在来種（旅鳥）
- 重要種等の指定状況：EN\*1 VU\*2
- 撮影者：Sillago
- 撮影場所：小石川植物園
- 撮影日：2021年1月23日

ピンク色の長い脚が特徴で、背が高く見えるシギです。東京湾周辺の干潟や湿地に生息している個体が移動する際に羽を休めにきたものと考えられます。



## ハイタカ

- 生物分類：タカ目タカ科ハイタカ属
- 由来：在来種
- 重要種等の指定状況：EN\*1 NT\*2
- 撮影者：Sillago
- 撮影場所：小石川植物園
- 撮影日：2020年12月16日

小型のタカで、主に小型の鳥類を食べます。本来は野山に棲む鳥ですが、都市部の緑にも適応してきているようです。ほぼ一年中見られますが、渡りをする個体もいます。区内では秋や冬に見られることが多いです。



## オオタカ

- 生物分類：タカ目タカ科ハイタカ属
- 由来：在来種
- 重要種等の指定状況：EN\*1 NT\*2
- 撮影者：三石 康雄
- 撮影場所：肥後細川庭園
- 撮影日：2021年12月19日

中型のタカで、カラスと同じかそれより少し大きい程度です。主に小型・中型の鳥類を食べます。本来は野山に棲む鳥ですが、都市部の緑にも適応してきているようです。ほぼ一年中見られますが、渡りをする個体もいます。



## ノスリ

- 生物分類：タカ目タカ科ノスリ属
- 由来：在来種
- 重要種等の指定状況：CR\*1
- 撮影者：Sillago
- 撮影場所：小石川植物園
- 撮影日：2021年1月16日

中型のタカで、主に小型の哺乳類や鳥類を食べます。本来は野山に棲む鳥ですが、渡りをする個体もいます。区内では冬に見られることが多いです。



## カワセミ

- 生物分類：ブッポウソウ目カワセミ科カワセミ属
- 由来：在来種
- 重要種等の指定状況：VU\*1
- 撮影者：Sillago
- 撮影場所：小石川植物園
- 撮影日：2021年1月22日

水面近くを速く直線的に飛び、餌を採る時はホバリング（滞空（たいくう））してから水中に飛び込むこともあります。捕まえた餌は、枝などの止まり木に戻ってから食べます。区内では、神田川の護岸のパイプ穴などを巣として利用しています。オスは下の嘴が黒く、メスは赤いことで見分けることができます。



## ハヤブサ

- 生物分類：ハヤブサ目ハヤブサ科ハヤブサ属
- 由来：在来種
- 重要種等の指定状況：EN\*1 VU\*2
- 撮影者：Sillago
- 撮影場所：六義園
- 撮影日：2021年12月20日

獲物を捕る時に急降下する速度が世界最速の鳥です。近年は都市でも見られることが増えてきました。タカの仲間のように見えますが、どちらかというといんこに近い種です。



ウグイス

- 生物分類：スズメ目ウグイス科ウグイス属
- 由来：在来種
- 重要種等の指定状況：－
- 撮影者：Sillago
- 撮影場所：小石川植物園
- 撮影日：2021年12月9日

日本三鳴鳥の1つで、主に春に「ホーホケキョ」と大きな声でさえずります。春以外の時期は「ジツ ジツ」と低く濁った声で鳴きます。藪の中にいることが多いので、声は聞こえてもなかなか姿は見られません。



トラツグミ

- 生物分類：スズメ目ヒタキ科トラツグミ属
- 由来：在来種
- 重要種等の指定状況：VU\*1
- 撮影者：Sillago
- 撮影場所：小石川植物園
- 撮影日：2021年3月10日

主に低地の広葉樹林に生息し、昆虫類や木の実などを食べます。森の中で夜中に「ヒーヒー」「ヒョーヒョー」と細く寂しげな声で鳴くため、昔は鶇(めえ)とも呼ばれ、妖怪の声として気味悪がられることがありました。



オオアカハラ

- 生物分類：スズメ目ヒタキ科ツグミ属
- 由来：在来種
- 重要種等の指定状況：－
- 撮影者：Sillago
- 撮影場所：小石川植物園
- 撮影日：2021年3月3日

主に低地の広葉樹林に生息し、昆虫類や木の実などを食べます。腹部がオレンジ色をしているためアカハラといいますが、写真の個体は頭部や喉の黒みが強いので亜種オオアカハラです。



ルリビタキ(オス)

- 生物分類：スズメ目ヒタキ科ルリビタキ属
- 由来：在来種
- 重要種等の指定状況：－
- 撮影者：Sillago
- 撮影場所：小石川植物園
- 撮影日：2021年3月12日

夏は比較的涼しい地域の森林で繁殖し、区内では主に樹林地などで見られることがあります。写真の個体はオスで、きれいなルリ色をしています。メスは尾だけわずかにルリ色です。



キセキレイ

- 生物分類：スズメ目セキレイ科セキレイ属
- 由来：在来種
- 重要種等の指定状況：－
- 撮影者：Sillago
- 撮影場所：六義園
- 撮影日：2021年12月20日

溪流や沢の近くに生息しますが、区内では緑のある水辺の近くなどで冬鳥として見られることがあります。主に昆虫類やクモ類を食べます。灰色の背中、黄色のお腹、ピンク色の脚が特徴です。



ホオジロ

- 生物分類：スズメ目ホオジロ科ホオジロ属
- 由来：在来種
- 重要種等の指定状況：EN\*1
- 撮影者：Sillago
- 撮影場所：小石川植物園
- 撮影日：2020年11月12日

夏は比較的涼しい地域の山地で繁殖し、区内では主に冬季に見られます。比較的明るい植生の所で広く見られ、単独または数羽ほどの小さな群れで行動します。写真の個体はメスで、オスよりも全体的に淡い色をしています。

## 鳥類



### カシラダカ

- 生物分類：スズメ目ホオジロ科ホオジロ属
- 由来：在来種
- 重要種等の指定状況：VU\*1
- 撮影者：Sillago
- 撮影場所：小石川植物園
- 撮影日：2020年11月13日

日本には冬に農耕地や河原、草原などに飛来し越冬し、しばしば群れで行動します。主に草の種子を食べます。緊張すると冠羽を立てるので、この形から「頭高（カシラダカ）」と名付けられています。



### ミヤマホオジロ

- 生物分類：スズメ目ホオジロ科ホオジロ属
- 由来：在来種
- 重要種等の指定状況：—
- 撮影者：Sillago
- 撮影場所：小石川植物園
- 撮影日：2021年11月18日

日本には冬に農耕地や河原、草原などに飛来し越冬し、しばしば群れで行動します。どちらかというと西日本で多く見られます。主に草の種子を食べます。写真の個体はオスで、立派な冠羽と黄色い肩斑が特徴です。



### アオジ

- 生物分類：スズメ目ホオジロ科ホオジロ属
- 由来：在来種
- 重要種等の指定状況：—
- 撮影者：Sillago
- 撮影場所：六義園
- 撮影日：2021年12月20日

夏は比較的涼しい地域の山地で繁殖し、区内では冬に樹林地などで見られることがあります。アオジのアオは緑も含めた古い意味での青の意でオスの色彩に由来します。写真の個体はオスで、メスは顔が黒くなく、薄い黄緑の二本の線模様が目立ちます。



### クロジ (左：オス 右：メス)

- 生物分類：スズメ目ホオジロ科ホオジロ属
- 由来：在来種
- 重要種等の指定状況：NT\*1
- 撮影者：Sillago
- 撮影場所：小石川植物園
- 撮影日：2020年10月30日

夏は比較的涼しい地域の山地で繁殖し、区内では冬に樹林地などで見られることがあります。オスの体色が黒っぽいことからクロジといえます。

## 昆虫類



### コカマキリ

- 生物分類：カマキリ目カマキリ科コカマキリ属
- 由来：在来種
- 重要種等の指定状況：—
- 撮影者：かっちゃん
- 撮影場所：自宅
- 撮影日：2021年10月27日

移動が苦手な、都市部では緑が残された場所やその周りに生息しています。地表付近で生活する地味で小さなカマキリです。産卵が近いかなので、近くで卵を産んでいるかもしれません。



### テングチョウ

- 生物分類：チョウ目タテハチョウ科テングチョウ属
- 由来：在来種
- 重要種等の指定状況：—
- 撮影者：Sillago
- 撮影場所：小石川植物園
- 撮影日：2021年3月11日

頭部がテングの鼻のように前方に伸びていることからテングチョウといえます。成虫は春と秋に樹林地で見られ、幼虫はエノキなどの樹木の葉を食べます。



アカタテハ

- 生物分類：チョウ目タテハチョウ科アカタテハ属
- 由来：在来種
- 重要種等の指定状況：－
- 撮影者：Sillago
- 撮影場所：小石川植物園
- 撮影日：2021年3月26日

翅の表側にオレンジ色の帯があるのが特徴で、翅の裏側は枯葉のような地味な模様をしています。成虫は春～秋に樹林地で見られ、樹液や果実の汁などを食べます。幼虫はカラムシという草の葉を食べます。



マエアカスカシノメイガ

- 生物分類：チョウ目ツトガ科 Palpita 属
- 由来：在来種
- 重要種等の指定状況：－
- 撮影者：りょう
- 撮影場所：占春園
- 撮影日：2021年3月17日

透き通った翅と、翅の前縁のオレンジ色のスジが特徴の方です。幼虫はモクセイ科のネズミモチ、キンモクセイ、イボタノキなど市街地で植栽されているような樹木の葉を食べるため、市街地で見ることが多い方です。



ヨモギエダシャク

- 生物分類：チョウ目シャクガ科 Ascotis 属
- 由来：在来種
- 重要種等の指定状況：－
- 撮影者：かっちゃん
- 撮影場所：自宅
- 撮影日：2021年9月19日

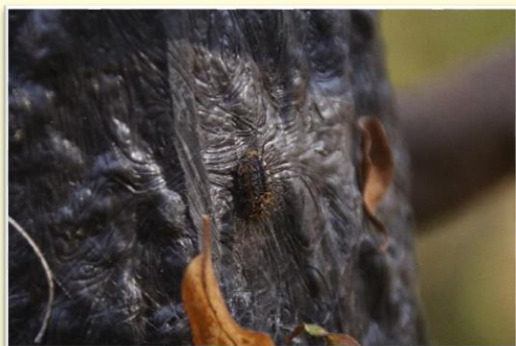
幼虫の時はシャクトリムシと呼ばれるシャクガの仲間です。名前にヨモギとありますが、幼虫はヨモギ以外の色々な草木の葉を食べ、6cm くらいまで育ちます。成虫は地味な色をしており、後翅の外縁がギザギザで、翅には特徴的な黒斑があります。



シマハナアブ

- 生物分類：ハエ目ハナアブ科 Eristalis 属
- 由来：在来種
- 重要種等の指定状況：－
- 撮影場所：小石川植物園
- 撮影日：2021年12月2日

名前にアブとありますが、どちらかというハエに近い仲間です。腹部に明瞭な黄色の三角斑と縞模様があるのが特徴です。幼虫は汚れた水の中で腐食物を食べて育ちます。成虫は主に花の蜜や花粉を食べます。



トホシテントウ（幼虫）

- 生物分類：コウチュウ目テントウムシ科 Epilachna 属
- 由来：在来種
- 重要種等の指定状況：－
- 撮影場所：小石川植物園
- 撮影日：2022年1月4日

多くのテントウムシは成虫で越冬しますが、本種は幼虫で越冬します。本種はアブラムシではなくカラスウリなどの植物の葉を食べます。



キンケハラナガツチバチ

- 生物分類：ハチ目ツチバチ科 Megacampsomeris 属
- 由来：在来種
- 重要種等の指定状況：－
- 撮影場所：小石川植物園
- 撮影日：2021年12月2日

ツチバチの仲間の中では、体の黄色い帯が良く目立ち、胸にも黄色の長い毛が密生していることで他の種類と区別できます。写真の個体はオスで、触角はメスの2倍以上の長さがあります。ハチの仲間はオスが刺すことはありません。

## クモ類



シグモ (巢)

- 生物分類：クモ目シグモ科シグモ属
- 由来：在来種
- 重要種等の指定状況：－
- 撮影場所：白山 2 丁目
- 撮影日：2021 年 12 月 2 日

建物の壁際や木の根元などの地面に 10cm くらいの縦穴を掘って筒状の巣を作ります。巣の中に潜んでいることが多く、近くを通る獲物を巣の中に引きずり込みます。



トラフカニグモ

- 生物分類：クモ目カニグモ科トラフカニグモ属
- 由来：在来種
- 重要種等の指定状況：－
- 撮影場所：小石川植物園
- 撮影日：2022 年 1 月 4 日

虎模様をしたカニ型のクモです。よく似たセマルトラフカニグモは腹部後方が丸くなっています。樹皮や看板の隙間などに潜って越冬します。

## 種子植物

- 生物分類：
  - センリョウ目
  - センリョウ科
  - センリョウ属
- 由来：在来種
- 重要種等の指定状況：－
- 撮影者：かっちゃん
- 撮影場所：自宅の庭
- 撮影日：2022 年 2 月 7 日



センリョウ

山林の湿った所に生える常緑低木で、冬に果実を着ける縁起の良い木として色々な所で植えられています。写真の個体は黄色い実を着けるキミノセンリョウという品種です。



ロウバイ

- 生物分類：クスノキ目ロウバイ科ロウバイ属
- 由来：植栽種
- 重要種等の指定状況：－
- 撮影場所：白山 5 丁目
- 撮影日：2021 年 12 月 29 日

中国原産での落葉低木で、庭木として広く植えられています。1～2 月頃に黄色い半透明の蟬状のツヤのある花を咲かせ、ウメのような香りがします。そのため、蟬梅と書いてロウバイと呼ばれるようになったといわれています。

- 生物分類：ユリ目ユリ科カタクリ属
- 由来：在来種
- 重要種等の指定状況：VU\*1
- 撮影者：Sillago
- 撮影場所：小石川植物園
- 撮影日：2021 年 3 月 16 日



カタクリ

山林で群生し、春先に薄紫色の花を下向きに反り返るように咲かせます。初夏の頃には葉も枯れて休眠状態になります。栄養分を蓄える地下部の球根（鱗茎）の形をクリの片割れに見立て片栗と呼ぶようになったといわれています。昔は球根から片栗粉が作られましたが、現在の片栗粉はジャガイモから作られています。



ハラン

- 生物分類：クサスギカズラ目クサスギカズラ科ハラン属
- 由来：植栽種
- 重要種等の指定状況：－
- 撮影者：Sillago
- 撮影場所：小石川植物園
- 撮影日：2021 年 3 月 28 日

長らく中国原産と考えられていましたが、九州南部の島に自生していることから日本原産ともいわれています。春に株の根元に王冠のような花を咲かせます。ハランの大きな葉は切って料理の飾りに使われたことから、現在のお弁当に入っている緑色の仕切りであるハランの名前の由来となりました。

## 種子植物類

- 生物分類：  
キンボウゲ目メギ科  
イカリソウ属
- 由来：  
在来種
- 重要種等の指定状況：  
CR<sup>\*1</sup>
- 撮影者：  
Sillago
- 撮影場所：  
小石川植物園
- 撮影日：  
2021年3月19日



イカリソウ

樹林地の林床に生育する多年草です。春に船の碇に似た花を咲かせます。里山の植物でもあり、東京都の絶滅危惧種となっています。園芸用や薬用に栽培や植栽されているものもあります。

- 生物分類：  
ユキノシタ目  
ユズリハ科ユズリハ属
- 由来：  
在来種
- 重要種等の指定状況：  
—
- 撮影者：  
かっちゃん
- 撮影場所：  
自宅の庭
- 撮影日：  
2022年2月7日



ユズリハ

春に古い葉が落ちて新しい葉に“譲る”ようにすぐに入れ替わることからユズリハといわれます。葉は長さ 8~20cm ほどの大きさで、葉柄が赤紫色を帯びているのが特徴です。

- 生物分類：  
ユキノシタ目  
ユキノシタ科  
ユキノシタ属
- 由来：  
在来種
- 重要種等の指定状況：  
—
- 撮影者：  
かっちゃん
- 撮影場所：  
自宅の庭
- 撮影日：  
2021年3月12日



ユキノシタ

湿った沢沿いに生える多年草ですが、観賞用に植えられているものもあります。薬草や山菜として利用されることもあります。山菜としてはちょうど春の頃が食べ頃です。

- 生物分類：  
バラ目バラ科カリン属
- 由来：  
植栽種
- 重要種等の指定状況：  
—
- 撮影者：  
Sillago
- 撮影場所：  
小石川植物園
- 撮影日：  
2021年3月16日



カリン

花梨と書いてカリンと読まれますが、のど飴や果実酒などのイメージのある果実のことではなく、高級木材である別種のマメ科樹木のカリンに木材が似ていることに由来します。中国原産の落葉樹です。

- 生物分類：  
キントラノオ目  
スミレ科スミレ属
- 由来：  
外来種
- 重要種等の指定状況：  
—
- 撮影者：  
Sillago
- 撮影場所：  
小石川植物園
- 撮影日：  
2021年3月19日



ツクシスミレ

国内の自生地は沖縄本島、九州南部などに限られ、名前のツクシは九州地方の別称の筑紫を意味します。東日本では人家付近に分布が多いことから帰化植物と考えられています。花は全体的に薄紫色で、中央が黄色いのが特徴です。

- 生物分類：  
ツバキ目ツバキ科  
ツバキ属
- 由来：  
植栽種
- 重要種等の指定状況：  
—
- 撮影者：  
Sillago
- 撮影場所：  
小石川植物園
- 撮影日：  
2021年3月26日



キンカチャ

中国原産で、お茶（チャノキ）の花に似た黄色い花を着ける特徴から金花茶と書きます。サザンカやツバキの仲間です。11~3月に花を咲かせます。

## 種子植物類

- 生物分類：  
シソ目オオバコ科  
クワガタソウ属
- 由来：  
外来種
- 重要種等の指定状況：  
—
- 撮影者：  
Sillago
- 撮影場所：  
小石川植物園
- 撮影日：  
2021年3月19日



オオイヌノフグリ

道端でよく見られるヨーロッパ原産の外来種です。秋に芽を出して育ち、春に花を咲かせます。夏の間は種子で過ごします。果実の形がオス犬の金玉袋（ふぐり）に似ているイヌノフグリ（在来種）の仲間で、イヌノフグリよりも大きいことからこの名が付けました。

- 生物分類：  
キク目キク科フキ属
- 由来：  
在来種
- 重要種等の指定状況：  
—
- 撮影者：  
かっちゃん
- 撮影場所：  
自宅の庭
- 撮影日：  
2022年2月27日



フキ

山野に生える多年草です。やや湿った所で育ちます。山菜として知られるフキノトウは本種の花芽で、早春に葉よりも先に土中から出てきます。初夏の頃の若い莖も食用にされます。

## シダ類



ノキシノブ

- 生物分類：ウラボシ目ウラボシ科ノキシノブ属
- 由来：在来種
- 重要種等の指定状況：—
- 撮影場所：根津
- 撮影日：2021年12月29日

多数の細かい根を出して、樹皮や石などに着生する、常緑性のシダ植物です。ノキシノブという名前は、軒先などにも生え、シノブのように着生することから来します。



イノモトソウ

- 生物分類：ウラボシ目イノモトソウ科イノモトソウ属
- 由来：在来種
- 重要種等の指定状況：—
- 撮影場所：不忍通り
- 撮影日：2021年11月13日

石垣などに生えるシダで、細長い羽のような形をした葉が特徴です。井戸の脇などでよく見られたことから「井の元草」と呼ばれるようになりました。

## コケ類



ゼニゴケ

- 生物分類：ゼニゴケ目ゼニゴケ科ゼニゴケ属
- 由来：在来種
- 重要種等の指定状況：—
- 撮影場所：根津
- 撮影日：2021年12月29日

人家の周辺に繁茂するコケで、家の北側や石垣の影や湧水周りなど湿気が多い場所で見られます。葉状体の形が昔の穴あき銭に似ていることから銭苔といわれます。

## 菌類

- 生物分類：  
ヒダナシタケ目  
タコウキン科  
カワラタケ属
- 由来：  
不明
- 重要種等の指定状況：  
—
- 撮影者：  
かっちゃん
- 撮影場所：  
自宅の庭
- 撮影日：  
2022年2月7日



カワラタケ

タコウキンは多孔菌と書き、多孔質の硬い皮状のキノコ類のことを呼びます。本種は世界中に広く分布し、国内でも広葉樹および針葉樹の枯れ木に群生し、木を分解して栄養をとります。



## <重要種とは>

固有性、希少性、立地依存性、脆弱性や学術性などの観点から重要と考えられる生物種を“重要種”と呼びます。

本アルバムでは、下記に該当する生物種を“重要種”として選定しています。

## <重要種のカテゴリー>

レッドリスト (東京都区部)※1	レッドリスト (環境省)※2	基本概念
絶滅 (EX)	絶滅 (EX)	既に絶滅したと考えられる種
野生絶滅 (EW)	野生絶滅 (EW)	飼育・栽培下あるいは自然分布域の明らかに外側で野生化した状態でのみ存続している種
絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅の危機に瀕している種
絶滅危惧ⅠA類 (CR)	絶滅危惧ⅠA類 (CR)	ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの
絶滅危惧ⅠB類 (EN)	絶滅危惧ⅠB類 (EN)	ⅠA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅の危険が増大している種
準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)	現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧Ⅰ類」に移行する可能性のある種
情報不足 (DD)	情報不足 (DD)	評価するだけの情報が不足している種
—	絶滅のおそれのある地域 個体群 (LP)	地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの
留意種 (*)	—	現時点では準絶滅危惧のレベルではないが、相対的に数が少ない種であり、容易に個体数が減少することがあり得るため、留意が必要と考えられるもの

※1:「東京都レッドリスト(本土部)2020年版」(東京都、令和3年3月)の区部に該当する掲載種

※2:「環境省レッドリスト2020」(環境省、令和2年3月)

## <外来種とは>

もともとその地域にいなかったのに、人間の活動によって他の地域から入ってきた生物種を“外来種”と呼びます。

本アルバムでは、下記に該当する生物種を“外来種”として選定しています。

- ①「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」(平成16年法律第78号)に基づき指定された特定外来生物、未判定外来生物
- ②「我が国の生態系に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト(生態系被害防止外来種リスト)」に掲載の生物種
- ③国立研究開発法人国立環境研究所「侵入生物データベース」に掲載の生物種

本アルバムでは、上記の“外来種”に該当しない種の由来については下記の定義をしています。

- ・園芸品種：人為的に改良された品種として植えられたもの
- ・植栽種：人為的に植えられたもので、園芸品種として判別できなかったもの
- ・逸出種：人為的に植えられたり飼育されたりしたものから逸出したと考えられるもの
- ・不明：種が特定できないものや、種の由来に諸説あるものなど

## 文京区資源環境部環境政策課

〒112-8555 文京区春日一丁目16番21号

電話 03(5803)1276

## 文の京生きもの写真館 ホームページ

<https://www.city.bunkyo.lg.jp/bosai/kankyo/jouhou/ikimonosyasinkan.html>